

様式 1 1

「川づくり団体」部門

河川基金助成事業

地域連携『くま川の魅力を知り尽くす 球磨川河口再生大作戦』

助成番号： 2024-6111-001

次世代のためにがんばる会

代表者 松浦 ゆかり

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2024-6111-001	地域連携『くま川の魅力を知り尽くす球磨川河口再生大作戦』	次世代のためにがんばる会 代表 松浦ゆかり
活動の目的		
<p>昨年度まで青少年が干潟いきもの調査や流域学習、不法投棄対策、環境保全活動を通じて学んだことで、地域を「自分ごと」として考えるようになったことから、次は『他人ごと』とする地域の人々を巻き込んで、課題解決を実働による『球磨川河口再生大作戦』を行い、情報発信や交流を通じて地域理解者を増やしていく。そしてこの活動を年々次の世代に引き継ぎ、地域全体の繁栄となる。</p>		
事業テーマ	(申請書に記載した「申請テーマ」を記載してください。)	
【実施内容】		
助成事業の要旨	<p>1. <u>初会は球磨川があつての干拓地、また、八代地域の恵みの川であることを老若男女で学ぶ</u> ①座学講演会とエコユースやつしろ活動紹介(参加者18人) ②現場2回(参加者44人) その1:エコユースやつしろ説明会での講演(座学)「八代海・干拓地の創り歴史と球磨川」 その2:「水防災歴史散策会」国土交通省八代河川事務所のガイドで、令和2年豪雨災害地で災害時の地元住民の声を聞き、災害地見学。(参加者24人) その3:「八代日本遺産見学会」球磨川に繋がる構造物がどう関係するのかをインフラ専門家に学ぶ(はね・樋門・石橋:日本遺産などを巡った)(参加者20人)</p> <p>2. <u>干潟再生大作戦と球磨川河口いきもの調査(国土交通省実験芳原再生地を借りて調査)</u> 毎月開催: 国土交通省八代河川事務所による球磨川の体積土砂を河口部に投与した人工的干潟に棲むようになった様々な希少種ベントスや塩生植物などの調査を、エコユースやつしろと行った。 (参加者:毎月合計 458人)</p> <p>3. <u>球磨川河口干潟フェスタ開催</u>:上記2、の干潟が市民の憩いの場となることから、その周知をするためのフェスタを開催。定例のいきもの調査をユースが班長として市民へ指導した。また、ユース運営で各高校や行政、企業テントブースで活動紹介をすることで互いに活動を認識できた。 (参加者250人)</p> <p>4. <u>不法投棄視察</u>:河口部のテトラポット中に捨てたであろう日常的な生活ごみ(不法投棄)を視察させ、市民への啓発を行う企画➡ごみ問題の現場をパネルにし、八代市役所ロビーにて展示会開催。</p> <p>5. <u>WET 講座</u>:高校生対象:水に関する企画を取り組むためにも高校生をメインに参加、取得させるようにしているので、毎年多数ユースには好評。 (資格取得者19人:参加者29人)</p> <p>6. <u>海外・県外の高校生と情報交換会</u> ① オンラインによる海外ユースと環境保全の意見交換会(参加者15人) ② 「九州高校生SDGsサミットin長崎」支援団体:長崎チーム・シークリーンや環境省、国土交通省、農水局や高校教諭と、九州各県で河川や浜辺保全をしている高校が参加。今年度は長崎(2校)福岡(2校)熊本(エコユース6校)の高校生が地域課題と改善策を交流し意見交換を行い、対策行動を起こす案をまとめた。尚、次年度は佐賀開催。(参加者50人) ③ 全国海辺の保全高校生サミット参加6人:高校生が考えるごみ問題課題を全国規模(神奈川県)登壇で発表。(参加者5人)</p> <p>7. <u>高校の探求の時間での授業や専門家の講演会の開催</u>:マイクロプラスチックや干潟や球磨川の保全を専門家や国土交通省八代河川事務所に依頼し、教科書にはない地元の球磨川や再生地、希少種の現状などの講演。 (2校4回:参加者870人)</p> <p>8. <u>情報発信</u>:地元ラジオ・ケーブルテレビ放送(31人出演) 活動に参加したメンバーを地元ラジオに出演させて、何がどう感じたか、自分ごととした感想を発言させている。この放送にでることで、活動の振り返りの学びの出演となる。</p>	

- 9, 全企画体験を踏まえ、老若男女で「地域の宝 SDGSDGs カードゲーム」基本形を作成中（3年計画）
*企画その1：行政ヒアリング（国土交通省八代河川事務所、環境省九州地方環境事務所、農水局、熊本県地域振興局、八代市での課題ヒアリング（参加者42人）
*企画その2：地元の課題や魅力を学ぶワークショップ、講演会開催 3回（参加者合計39人）

〔成 果〕

1. 高校生が250人以上参加する企画、「おおそうじ大会」を「干潟フェスタ」と称し干潟再生体験を行い高校生の意識向上と学校現場教育に認識され、国土交通省八代河川事務所による干潟に愛称募集も募る企画で「生き物潟り」という愛称も決まり、地域の話題となり、地域への周知により市民の憩いの場になっていくと思う。
2. 広報活動で、エコユースやつしろメンバーがSNSを立ち上げ、また地元ラジオ・ケーブルテレビなどを活用し活動の成果を広めた。また、当会が熊本県表彰（くまもとSDGs大賞）を受けたことで、県下イベントでのポスター展示依頼あり、地域外への情報提供で活動が有名になった。
3. 前記活動で組織した有志の繋がり、九州各県の高校生を中心に、他の地域や専門家との連携を強化し、共同プロジェクトの実施を可能にした。
4. 高等学校の探求の時間で「地域環境について」授業を行ったことで、多くの高校生から相談を受けている。成果として高校生が探求授業で取り組んだ課題を県大会応募する等、意欲が広がっている。
5. 毎月の干潟いきもの調査は具体的な専門家データ分析、調査報告ができた。

これらの活動は目に見える結果を生み出し、地域の環境保全と再生地憩いの場に繋がる。

〔今後の展望〕

- 1、活動を継続し、長期的な持続可能な成果を確保するために①教育と意識啓発の拡大、活動を広めるために地域外で展示、WSを増やし、高校、大学、行政、企業との連携をする。
- 2、パートナーシップの強化：他の地域や関連組織との協力を強化し、地域再生に向けた連携ネットワーク構築し、経験と専門知識を共有する。

〔成 果〕

2. 高校生が250人以上参加する企画、「おおそうじ大会」を「干潟フェスタ」と称し干潟再生体験を行い高校生の意識向上と学校現場教育に認識され、国土交通省八代河川事務所による干潟に愛称募集も募る企画で「生き物潟り」という愛称も決まり、地域の話題となり、地域への周知により市民の憩いの場になっていくと思う。
2. 広報活動で、エコユースやつしろメンバーがSNSを立ち上げ、また地元ラジオ・ケーブルテレビなどを活用し活動の成果を広めた。また、当会が熊本県表彰（くまもとSDGs大賞）を受けたことで、県下イベントでのポスター展示依頼あり、地域外への情報提供で活動が有名になった。
3. 前記活動で組織した有志の繋がり、九州各県の高校生を中心に、他の地域や専門家との連携を強化し、共同プロジェクトの実施を可能にした。
4. 高等学校の探求の時間で「地域環境について」授業を行ったことで、多くの高校生から相談を受けている。成果として高校生が探求授業で取り組んだ課題を県大会応募する等、意欲が広がっている。
5. 毎月の干潟いきもの調査は具体的な専門家データ分析、調査報告ができた。

これらの活動は目に見える結果を生み出し、地域の環境保全と再生地憩いの場に繋がる。

【年間体験活動参加人数】

・説明会・座学講演会（18人）・球磨川河口いきもの調査（毎月合計458人）球磨川河口干潟フェスタ～河口の大掃除も行う～（250人）・地域の宝SDGsゲーム作成（行政ヒアリング42人、地域の課題や魅力を学ぶWS・講演会39人）不法投棄視察（17人）・プロジェクトWET講座（29人）・食の安全講演会（43人）・プラスチック選別センターエフピコ見学会（10人）・九州高校生SDGsサミットin長崎（50人）・全国海辺の保全高校生サミット、全国規模登壇（参加者6人うち4人登壇）・オンライン海外ユースと環境保全の意見交換会（15人）・水防災歴史散策会（24人）・八代日本遺産見学会（20人）・二つの高校の探求授業や専門家の講演会（4回870人）・FMやつしろ生放送・ケーブルテレビで活動紹介と保全啓発（34人）

総合計1754人

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2024-6111-001	地域連携『くま川の魅力を知り尽くす 球磨川河口再生大作戦』	次世代のためにがんばる会 代表 松浦ゆかり

助成事業実施成果の自己評価

【当初目標の達成度】

高校生による地域活動組織「エコユースやつしろ」が定着し、メンバーも着実に増加していることから、地域の自然環境保全に関わる若い世代の人材育成という目標は、おおむね達成されたと評価できる。高校生が主体的に企画・運営を行う姿勢が定着し、地域活動への自発的な参加が促進された。また、若い世代に地域の課題を「じぶんごと」として認識させる戦略が奏功し、地域資源や自然環境、歴史文化への関心と理解が深まった。具体的には、球磨川再生地「干潟フェスティバル」の開催、「地域の課題と解決のワークシート冊子」の作成と配布、干潟の生きもの調査の実施、八代市長への提言、県外高校生との体験型交流研修会の開催など、目標達成に向けた多面的な活動が行った。これらの取り組みにより、地域の担い手となる高校生の育成という目的に対し、十分な成果が得られたといえる。

【活動の創意工夫点】

- * 地域や市民団体、学校等が行う環境保全活動や環境学習等に対し、問題や課題の解決に向けて適切な助言等を行うほか、地域の環境パートナーシップ形成等、地域における環境保全を元に企画した。
- * 高校生が主体的に活動できるよう開催時期や期間が十分配慮して計画をてた。
- * 八代市周辺を主な活動地域とし、可能な限り多くの高校生が主体的に活動できるようデザインした。
- * 八代市周辺の地域活動に関わる上位目標に加えて、他地域（県外）高校生との干潟保全活動を通じた交流ができ、活動が及ぼす影響の範囲が広まった。

【地域や河川管理者との連携】

干潟のいきもの調査においては、特に国土交通省との連携を深めることができ、「干潟フェスタ」や干潟の愛称（「生き物潟ち」）の決定に伴う除幕式を共同で実施することができた。

また、教材づくりに向けた地域ヒアリングでは、市役所をはじめ、環境省や農林水産省とも連携し、会員の高校生たちからの質問にも丁寧に対応していただいた。これらのやりとりをもとに、今後は教育教材の作成を進めていく予定である。

さらに、各会員が通う八代市内の高校とも連携が取れ、「干潟フェスタ」では学校ごとの研究発表や地元特産品の紹介・販売なども行われた。中でも、干潟の愛称が「生き物潟り」に決定したことは、参加者の関心を集める大きな話題となり、地域全体の注目度向上にもつながったと考えられる。

【今後の展望】

本活動は、これまで23年間継続してきた地域の取り組みを基盤としており、助成期間終了後も自律的に継続していく見込みである。

官・民・学・産の協働体制のもと、高校生たちは地域の課題を「自分ごと」として捉え、情報発信や交流、実践活動を通じて地域の理解者を広げてきた。こうした活動は次世代への継承も進んでおり、継続的な地域づくりの基盤が形成されつつある。

今後は、オンラインでの交流や動画発信などを通じて、若者の関心を引き出しつつ、地域課題を共有・解決する輪を広げていく。また、「生き物潟り」として認定された球磨川河口干潟では、行政や一般市民と協働した生きもの調査を継続しつつ、教育や市民の憩いの場としての活用を進めていく。

高校生主体の「ユースによる海洋保全プロジェクト」をさらに発展させ、地域の人々が地域の良さを知り、誇りを持って関わる「自分ごと」の促進を目指していく。

【活動の目的】

この企画は、昨年度まで青少年が干潟いきもの調査や流域学習、不法投棄対策、環境保全活動を通じて学んだことで、地域を「自分ごと」として考えるようになったことから、次は『他人ごと』とする地域の人々を巻き込んで、課題解決を実働による『球磨川河口再生大作戦』を行い、情報発信や交流を通じて地域理解者を増やしていく。そしてこの活動を年々次の世代に引き継ぎ、地域全体の繁栄となる。

【活動概要】

- ① 地域住民の多数が球磨川の土砂の恵みでできた八代平野の歴史や、干潟の存在も知らない。日頃から川へ足を運ぶことさえしないので、河川環境保全を「他人事」としてしているので、地域を巻き込み、手段を持って川に気持ちを持つ取組みが必要。②20年間八代海河川・浜辺の大そうじ大会で、年々高校生の参加が増加（最大700人参加）し、毎年場所を変えてはいるが、参加人数に対し河口や河川敷のごみが少なく持て余す人がいる。

【活動内容】

1. 初会は球磨川があつての干拓地、八代地域の恵みの川であることを老若男女で学ぶ
 - ①座学講演とエコユースやつしろ活動紹介(参加者18人) ②現場2回(参加者44人)
その1:エコユースやつしろ説明会での講演(座学)「八代海・干拓地の創り歴史と球磨川」
その2:「水防災歴史散策会」国土交通省八代河川事務所のガイドで、令和2年豪雨災害地で災害時の地元住民の声を聞き、災害地見学。(参加者24人)
その3:「八代日本遺産見学会」球磨川に繋がる構造物がどう関係するのかをインフラ専門家に学ぶ(はね・樋門・石橋:日本遺産などを巡った)(参加者20人)
2. 干潟再生大作戦と球磨川河口いきもの調査(国土交通省実験芳原再生地を借りて調査) 毎月開催:国土交通省八代河川事務所による球磨川の体積土砂を河口部に投与した人工的干潟に棲むようになった様々な希少種ベントスや塩生植物などの調査を、エコユースやつしろと行った。(参加者:毎月合計458人)
3. 球磨川河口干潟フェスタ開催: 上記2、の干潟が市民の憩いの場となることから、その周知をするためのフェスタを開催。定例のいきもの調査をユースが班長として市民へ指導した。また、ユース運営で各高校や行政、企業テントブースで活動紹介をすることで互いに活動を認識できた。(参加者250人)
4. 不法投棄視察: 河口部のテトラポット中に捨てたであろう日常的な生活ごみ(不法投棄)を視察させ、市民への啓発を行う企画➡ごみ問題の現場をパネルにし、八代市役所ロビーにて展示会開催。
5. WET講座: 高校生対象:水に関する企画を取り組むためにも高校生をメインに参加、取得させるので、毎年多数ユースには好評。(資格取得者19人:参加者29人)
6. 海外・県外の高校生と情報交換会
 - ① オンラインによる海外ユースと環境保全の意見交換会(参加者15人)
 - ② 「九州高校生SDGsサミットin長崎」支援団体:長崎チーム・シークリーンや環境省、国土交通省、農水局や高校教諭と、九州各県で河川や浜辺保全をしている高校が参加。今年度は長崎(2校)福岡(2校)熊本(エコユース6校)の高校生が地域課題と改善策を交流し意見交換を行い、対策行動を起こす案をまとめた。尚、次年度は佐賀開催。(参加者50人)

③ 全国海辺の保全高校生サミット参加 6 人：高校生が考えるこみ問題課題を全国規模（神奈川県）登壇で発表。（参加者 5 人）

7. 高校の探求の時間での授業や専門家の講演会の開催：マイクロプラスチックや干潟や球磨川の保全を専門家や国土交通省八代河川事務所に依頼し、教科書にはない地元の球磨川や再生地、希少種の現状などの講演。（2 校 4 回：参加者 870 人）

8. 情報発信（地元ラジオ・ケーブルテレビ放送（31 人出演）
活動に参加したメンバーを地元ラジオに出演させて、何がどう感じたか、自分ごと
とした感想を発言させている。この放送にすることで、活動の振り返りの学びの出演となる。

9. 全企画体験を踏まえ、老若男女で「地域の宝 SDGSDGs カードゲーム」基本形を作成中（3 年計画）
*
企画その 1：行政ヒアリング（国土交通省八代河川事務所、環境省九州地方環境事務所、農水局、熊本県地域振興局、八代市での課題ヒアリング（参加者 42 人）
*企画その 2：地元の課題や魅力を学ぶワークショップ、講演会開催 3 回
（参加者合計 39 人）

〔成 果〕

1. 高校生が 250 人以上参加する企画、「おおそうじ大会」を「干潟フェスタ」と称し干潟再生体験を行い高校生の意識向上と学校現場教育に認識され、国土交通省八代河川事務所による干潟に愛称募集も募る企画で「生き物潟り」という愛称も決まり、地域
の話題となり、地域への周知により市民の憩いの場になっていくと思う。
2. 広報活動で、エコユースやつしろメンバーが SNS を立ち上げ、また地元ラジオ・ケーブルテレビなどを活用し活動の成果を広めた。また、当会が熊本県表彰（くまもと SDGs 大賞）を受けたことで、県下イベントでのポスター展示依頼あり、地域外への情報提供で活動が有名になった。
3. 前記活動で組織した有志の繋がり、九州各県の高校生を中心に、他の地域や専門家との連携を強化し、共同プロジェクトの実施を可能にした。
4. 高等学校の探求の時間で「地域環境について」授業を行ったことで、多くの高校生から相談を受けている。成果として高校生が探求授業で取り組んだ課題を県大会応募する等、意欲が広がっている。
5. 毎月の干潟いきもの調査は具体的な専門家データ分析、調査報告ができた。
これらの活動は目に見える結果を生み出し、地域の環境保全と再生地憩いの場に繋がる。

【実績】

1. 干潟保全の定例活動には老若男女 450 人、干潟フェスタには 250 人が参加し、市民の認識が深まった。また、国土交通省八代河川事務所との共同によるいきもの調査が地域のアピールに繋がり、干潟の愛称に全国から 200 件以上の応募があり、その中で「生き物潟り」が選ばれた式典が行われた。これにより市民への認識が一層深まる場
となった。
2. 地域課題と解決策の探究：高校探求時間の参考となるものを作るために、数人の専門家の講義を受け、ワークショップや行政ヒアリングを実施した。問題提起の課題に対策を考える「探求の教材」を作成中である。（3 年計画）活動小冊子 1000 部は作成し、市内全ての教育機関、行政機関に配布した。
3. 市民参加型になる干潟フェスティバル 250 人の参加で開催した。エコユースやつしろメンバーが市民へのいきもの指導を行い、また、市内の高校、行政、企業の展示コーナーを設け、活動紹介をしあった。

4. ① 九州の福岡2校、長崎2校、熊本（当会を含む）が共通の課題である河川浜辺の保全活動について情報を交換し、課題を共有したうえで改善のための具体的な行動計画を策定し、各自が取り組むこととした。（当会は地域保全のヒアリングを基に教材作成などを行った。）
- ② 10月に開催された全国規模の「浜辺の自然再生高校生サミット」に参加し、その交流会で日本一斉浜辺ごみ調査と保全活動を実施することとした。また、オンラインでの浜辺保全に関する講演会や情報共有を行うことも決定した。
5. 前述の繋がりをもとに、今後は九州全域で河川浜辺の保全活動を行っている高校との交流を進め、高校生による実行委員会を運営していく。

【年間体験活動参加人数】

・説明会・座学講演会（18人）・球磨川河口いきもの調査（毎月合計458人）球磨川河口干潟フェスタ～河口の大掃除も行う～（250人）・地域の宝SDGsゲーム作成（行政ヒアリング42人、地域の課題や魅力を学ぶWS・講演会39人）不法投棄視察（17人）・プロジェクトWET講座（29人）・食の安全講演会（43人）・プラスチック選別センターエフピコ見学会（10人）・九州高校生SDGsサミット in 長崎（50人）・全国海辺の保全高校生サミット、全国規模登壇（参加者6人うち4人登壇）・オンライン海外ユースと環境保全の意見交換会（15人）・水防災歴史散策会（24人）・八代日本遺産見学会（20人）・二つの高校の探求授業や専門家の講演会（4回870人）・FMやつしろ生放送・ケーブルテレビで活動紹介と保全啓発（34人）

総合計 1754人

【今後の展望】

オンラインで参加者同士が交流や情報交換を行える機会を設け、それぞれの地域の実情や取り組み、課題、活動内容を紹介し、意見交換を行うことで、地域の問題は他人事ではないという意識を広めていきたい。また、動画作成などを通じて若者にも興味を持って活動に参加してもらえることを期待している。

国土交通省八代河川事務所が認定した球磨川河口干潟「生き物潟り」では、当会が行政と共同で毎月生き物調査を実施している。この干潟「生き物潟り」を今後、市民の憩いの場として、また専門家の指導のもとで生態系を学ぶ場として広く県民や市民に周知し、地域企業や行政と協働しながら資金面や実働体制を整備し、八代海の再生と保全に繋げていく。

【連携組織】

- 1) 青少年育成のための授業及び指導：・大学教授（東京大学・九州大学・熊本大学・長崎大学・北九州市立大・崇城大学、様々な省庁など）
- 2) 青少年育成授業の受入れとサポート：・八代市内の高校（八代高校・八代工業高校（定時・夜学）・八代農業高校・八代東高校・八代清流高校・秀岳館高校・八代白百合学園高校の7校）・市内の小学校児童
- 3) 青少年育成の企画・運営サポート：・環境省九州地方環境事務所・九州農政局熊本県拠点・国土交通省九州整備局・八代河川国道事務所・熊本県環境立県推進課・八代市環境課・農林水産課など
- 4) 連携団体：ラムサールネットワーク日本・八代野鳥愛好会・八代植物友の会など

尚、干潟いきもの調査では、特に国土交通省との連携を深め、干潟フェスタや干潟の愛称（生き物潟ち）決定の除幕式などを共同で実施することができた。また、教材づくりのための地域ヒアリングでは、市役所、環境省、農水省とも連携し、会員学生たちからの質問にも対応してもらえた。それらを基に教材づくりを進めていきたいと考えている。さらに、各会員の八代市内の高校とも連携が取れ、干潟フェスタでは、学校の研究発表や特産品の紹介販売なども行うことができた。干潟の愛称が決まったことは、何よりも注目を集める内容だったと思う。

〔キーワード〕

- ・ 専門家による多種多様な講演会や体験型学習会
- ・ 地域への情報発信とコミュニケーション能力
- ・ 各地での発表で他県のユースとの交流学習開始
- ・ 球磨川河口再生地愛称「生き物潟り」決定

講師・指導者・参加者表

敬称略

	所 属	役 職	氏 名	年 齢	
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
延べ参加人数	1,752名	スタッフ	90名	一般	1,662名

活動詳細

【1】エコユースやつしろ 説明会・八代球磨川の歴史講演会

期 日：5月18日（土）15:30～16:30

会 場：桜十字ホール八代 研修室

参加者：エコユースやつしろ2,3期生人、入会候補13人
高校教諭1人、スタッフ4人計18人

内 容：エコユースやつしろ3期生が企画、運営を初体験で行い、会の目的及び年間活動の紹介を3期生が説明。昨年度体験活動を盛り込んだ活動紹介の話題や、自分なりの興味を持った活動を紹介してくれた。顧問の川口氏による「八代地域の魅力」講演会も実施した。

感 想：*講演会で八代、球磨川の魅力と課題を認識でき、これからの活動で問題点を改善していけたらと思います。

*思っていたより幅ひろい活動がたくさんあって、全部参加して学んでみたいと思いました。運営にも携われることにとっても惹かれました。



市内の高校生が参加



エコユースやつしろ3期生が運営(受付・司会・講師紹介など)



【2】エコユースやつしろ 定例「生きもの濁りいきもの調査」：球磨川河口再生干潟

期 日：4月14日（土）15:30～18:00

会 場：球磨川南川及び前川河口部（中北町）

参加者：エコユースやつしろ10人一般13人、講師1人、国土交通省7人

スタッフ6人

計37人

内 容：再生地である干潟に市民調査の手法（15分調査、15ヶ所掘りいきものを掘るおこし採取。その後、班ごとに森教授による説明を受ける）を8班に分かれてベントスを調査する。

感 想：*いきもの調査では、季節を感じる事ができた。夏は生きものたちが活発で、目で見ても耳で聞いても多くの生きものに出会えて嬉しかった。

*八代の干潟に棲む生きものたち、全く知らなかった私が、「ハクセンシオマネキ」などの種類を言えるようになったことが嬉しいです。



沢山の家族連れ参加の調査



森敬介先生指導で調査報告



クロツラヘラサギ：野鳥観察

定例 いきもの調査報告

5月26日(日) 14:30~16:30	参加者	34人
6月19日(水) 13:00~15:00	参加者	6人: 予定23日が雨のため期日変更
7月20日(土) 14:00~16:00	参加者	10人
8月18日(日) 11:00~12:00	参加者	15人
9月28日(土) 9:00~11:00	参加者	16人
10月27日(日) 10:00~12:00	干潟フェスタ開催 (詳細は下記2-2)	250人
11月10日(日) 7:30~9:30	参加者	8人
12月14日(土) 13:00~15:00	参加者	9人
1月7日(火) 8:00~10時	参加者	6人
2月11日(土) 13:30~15:30	参加者	11人
3月29日(土) 13:00~15:00	参加者	13人(予定15日雨、愛称セレモニー変更) 以上、年間参加者 458人



4月



5月



6月



7月



8月



9月



11月



12月



1月



2月



3月

【3】第1回球磨川河口エコトーン 干潟フェスタ

期 日：10月27日（日）9：30～12：00

場 所：球磨川河口南川及び前川河口部（八代市中北町）

参加者：エコユースやつしろ含む八代市内の高校生人、
スタッフ7人、講師3人、国土交通省八代河川事務所、
企業、高校関係者 合計250人

内 容：球磨川沿岸のごみ拾いと分別、いきもの調査を行い、
河川や海辺のごみ問題の現状を知り、守り、次の世代
へ引き継ぐ人材教育を目指す企画。また地域の方々と
の干潟を通じて交流の場となることを期待している。

感 想：*エコユースやつしろが運営やいきもの調査指導に携わることで、干潟への想いや
保全活動の大切さが理解できた。

*前川河口の干潟は創生干潟ですが、今はいきものがたくさん棲める状態になっ
て、様々な苦労があったことと思います。だから、もっと市民に知ってもら
いたいです。



エコユースやつしろメンバー



官、学、産の展示コーナー



ユースとの事前会議



8つの班にユースが班長として調査



エコユースやつしろ運営メンバー



次世代のためにがんばる会員

【4】—1 食品表示(水の重要性)講演会

期 日：6月8日（土）10：00～12：30

場 所：八代市おまつりでんでん館

講 師：森田洋教授（北九州市立大院 教授）

参加者：エコユースやつしろ4期生8人・スタッフ7人
・一般28人 計43人

内 容：生活の中で、「水」に関するたくさん問題があり
その中でも健康を保つために大切な本質を知ること
「食品表示」があること、その内容を学び、次の
世代も安全で健康な暮らしができること考えての
講演会企画。

感 想：テレビなどで見る「イメージ」や「個人的意見」
は、そのままのみにしてしまわないように気を
付けたい。自分の食べるものだからこそ、表示をしっかり見て購入したい。





司会進行、謝辞などもユースが担当



終了後も沢山の質問攻め

【4】—1 食品表示(水の重要性)講演会

6月8日の講演会に来場されていた八代高校の教諭の依頼で、7月5日 高校1学年(320人)の講演会に繋がり開催できた。



八代高校での森田教授の講演会



1学年、探求の時間での講演会

【5】—1 教材作成(八代の環境を編集) 教材作成 ワークショップ①

期 日：6月30日(土) 9:30~12:00

場 所：八代市立図書館 会議室

参加者：EYY10人 スタッフ4人講師1人 合計15人

感想：市立図書館にて、いろいろな「すごろく」を体験してみよう!と題して、参加したユースで班ごとに様々なすごろくを体験した。マスの内容がクイズ形式だったり、戻るマス、進むマス、カードやポイントが入る「すごろく」など、様々あり、自分たちが、どのような「すごろく」を作成したいかの構想を練ることができた。また、講師の川口氏から八代八景のお話や八代市の歴史や課題点なども学習し、地域の課題について行政へヒヤリングに行く計画も立てた。



【5】—2 教材作成(八代の環境を編集) ワークショップ②

日 時：7月7日(日) 9:00~12:00

場 所：桜十字ホールやつしろ

参加者：EYY14人、講師3人スタッフ高校生他7人合計24人

内 容：やつしろの宝すごろく(教材)づくりプロジェクトをエコユースやつしろ及び他校の生徒たちも一緒に話し合った。デミー博士を講師に招き、八代市内の小学生、中学生がSDGsや地域のことを遊びながら学べる「すごろく」づくりを八代市内の高校生が企画、取材、撮影、執筆、編集も行う2カ年計画を立てた。それぞれの学校行事もある中、作成していくのは大変かもしれないが、メンバー同士の交流を深める時間も作りたい!と積極的に案が出ていた。



【5】—3 教材作成(八代の環境を編集:行政ヒアリング)

目的:すごろくをしながら新しい八代を見つけて興味をもってもらうことを目的としています。知らない八代とは?:特産・名産、文化・歴史、有名人、祭り・イベント、施設・お店、産業、方言、地理・地理・地形、防災・災害、環境問題、環境の変化、課題・問題など当会が企画する八代の魅力を探るための教材作成と探求の時間に通じる地域課題と対策をヒアリングするものです。

そこで、地域の課題を見つけるために行政ヒアリングすることから始めました。

訪問場所名・期日

- ①熊本県南広域本部 八代市西片町1660 *2024年8月2日13時～
担当課 総務部地域振興課、健康保険環境部、総務企画課



- ②環境省九州地方環境事務所 熊本市西区春日2丁目10-1 2024年8月7日9時～
担当課 自然環境整備課、地域脱炭素創生部屋



- ③九州農政局 熊本市西区春日2丁目10-1 2024年8月7日11時～
担当課 企画調整室、消費・安全部 消費生活課、生産振興課



- ④国土交通省八代河川事務所八代市萩原町1丁目708-2 2024年8月9日14時～
担当課 流域治水課、河川管理課



⑤八代市役所 八代市松江城町1-25 2024年8月20日14時30分～
 担当課 1班 文化振興課、農林水産政策課、フードバレー課
 2班 企画政策課、地域政策課



訪問者

EYYメンバー13名・会員4名及び八代高校2年生7名・教諭1名 合計5か所42人

感想＊行政機関の訪問およびヒアリングは初めての経験であったため、最初は緊張しておりましたが、各省庁や役所の皆様の温かいご対応により、無事にヒアリングを実施することができました。

＊今回の訪問では、地域の理解の重要性が強調され、各省の主要な議題が提示されました。特に、県や市における地域課題や対策に関する情報は非常に多岐にわたり、詳細にわたる議論が展開されました。

＊八代に関連する主なテーマとしては、八代平野の耕作放棄地の問題、地域特有の歴史や文化、食の価値、そして少子化や人口減少に対する対策などが挙げられます。これらの問題に対して、多くの施策が講じられていることを学びました。

また、「人」のモチベーションと取り組みの重要性についての発言が印象的であり、この点が八代の将来に向けた討論の中心となりました。全体として非常に充実した体験となり、地域の未来に対するビジョンを共有する機会が得られました。

【7】第2回九州高校生SDGs未来キャンプin長崎

1. 目的

「SDGsを次に繋げるためのアクション」

本サミットでは、SDGsが目指す持続可能な社会づくりが次世代にとって重要なものであることを啓発します。参加する高校生たちに、持続可能なエネルギー利用のありかたや資源循環の重要性、環境に配慮した食と生活スタイルの考え方、環境保全活動の意義などを深く理解してもらい、自らが持続可能な社会を築くリーダーになるという意識を高めることを目的としている。

尚、今年度のテーマは、「浜辺のごみ、マイクロプラスチック問題」として企画。

共催 次世代のためにがんばろ会、team長崎シー・クリーン

後援 環境省九州地方環境事務所 国土交通省九州地方整備局、
 農林水産省九州農政局 長崎県 長崎市 八代市 八代市教育委員会

開催日程 2024年7月27日（土）・28日（日）

会場 長崎市民会館ほか長崎市中通り商店街や出島までのまち歩き

参加者 ①エコユースやつしろ（八代高校・八代工業高校・八代清流高校・八代白百合高校・熊本高専八代キャンパス・子どもエコクラブ（計18人）



- ② 長崎大学、長崎東高校、長崎中学生、福岡工業大学附属城東高校、新宮高校（計12人）
 - ③ 講師と助言者（環境省, 農林水産省, 国土交通省, 高校教諭、長崎市職員、町おこし団体代表・team長崎シー・クリーン, 次世代のためにがんばろ会）
- 合計** 大学生、高校生31人・行政・教諭・スタッフ20人 合計50人

実施内容

共催両団体の交流の中で、SDGsの中でも気候変動や環境問題に焦点を当て、青少年に重要性や取り組み方を伝えるイベントを企画。昨年7月に「SDGs 未来キャンプ in 長崎」を行い、昨年11月に同イベントを八代市で初開催。今回が2回目となる。両団体のメンバーのほか、城東高校（福岡市東区）と新宮高校（福岡県新宮町）などから50人ほどが集まった。

1日目はteam長崎シー・クリーンが取り組む清掃活動、エコユースやつしろの取り組みと成果を紹介。新宮高校が行う海岸調査の結果も発表した。



出水博士の司会進行



エコユースやつしろ活動発表



team長崎シー・クリーン活動発表

【1日目】第1部（講演会・ワークショップ）

各省から海洋ごみ問題をテーマに各省庁での取り組みを踏まえたご講演とワークショップ参加もいただいた。



* 環境省九州地方環境事務所 神松様・森様



* 農林水産省九州農政局長崎拠点 野村様、下村様



* 国土交通省九州地方整備局 古川貴博様



各学校のユースをシャッフルし、5つの班に分かれて海ごみ問題の問題提起、対策方法を考えた。 →



【1日目 第2部 (フィールドワーク)】

- ① 中島川周辺の地域で行ったフィールドワークでは、長崎県環境アドバイザーを務める中原泰彦様が中島川の生き物を捕まえて環境指標などと共に紹介。
ややきれいな水域としてホタルのエサになるカワナなども生息している事の説明。



- ② 長崎市議会議員でまちづくり活動にも取り組む森恭平様が、中島川のそばにある中通り商店街や浜町商店街、江戸町商店街を案内しながら街の店主とともに地域の活動などについて紹介した。



【2日目第1部 講演会】

斜面市街地を活用した市民農場「さかのうえん」(中新町)を運営する景観まちづくり団体「null長崎都市・景観研究所」代表の平山広孝様



「長崎という自分の街を知ろう」をコンセプトに1987(昭和62)年から「長崎ウーマンズ・ウォークラリー」を毎年開催している竹中晴美様からは、これまでの取り組みを紹介いただいた。

【2日目 第2部】

ユースと大人専門家が5班に分かれ、参加者はプラスチックごみを減らすためのアクションプランをグループごとに考察し、環境問題ポスター募集で周知する活動や海洋プラスチックごみを使ったアクセサリ制作体験、海洋ごみ清掃で集まったごみを分類してスタンプリング形式で可視化する方法などのアイデアを発表した。

「アイデアを出し合うだけでなく、その中から1つを決めて実施し、その結果を考察するところまでが目標。環境問題解決のために地域に暮らす人が地元への愛を持つことで、街も、環境も良くしようという気持ちが生まれるのではないかという思いから、地域で活動する人の話を聞いてもらう機会も設けた」。「参加者からは『志が同じでも取り組む内容が違うので興味深かった』『仲間ができた』などの声も聞かれた。互いに刺激し合える場にできたので、今後に期待するとことである。

最後に、来年は福岡で開催することの報告を行った。



班で意見交換取りまとめ



各班に大人専門家も参加



まとめの発表



まとめの発表



「長崎 出島」で集合写真撮影

【8】プロジェクトWET 講座

期 日： 8月10日（土）9:00～15:30

場 所： 桜十字ホール八代会議室

参加者： 高校生 14人・大人 7人

・講師 4人・スタッフ人 合計 29人

講 師： Project WET Japan 菅原 一成氏
ファシリテーター 中山 尚氏 松浦ゆかり
プロジェクトジャパン4人 浦濱氏

内 容： アイスブレイク： 青い地球・ゴールイメージ
使用アクティビティ 1. 大海の一滴 2. 塵も積もれば
3. エネルギーッシュな水

ピアティーチング 1 私の水アドレス、行動を起こせ！

ピアティーチング 2 バイキンバスターズ

ピアティーチング 3 川を渡る

ピアティーチング 4 侵入者

修了人数 13人 エducーターサポーター3人



日頃より地域の教育関係と共に活動をしていることで、担当教諭やエコユース八代メンバーにメールだけで参加者が募れた。演習者の大半が高校生であるため、理解しやすい副教材（パワーポイント）の準備をしたり、班を分ける際にも日ごろからの友人を会えて外し、各班の仲間づくりを目指した。エドゥケーターになり、次のステップアップを目指したい。という声があいづつか出ていたので、将来は八代でもファシリテーター講座を開く予定。

感想： 中身の濃い講習会で長時間の講習会があつという間に感じた。ただの講義型ではないところが自分自身の身になると感じた。



班に分かれてピアティーチングの作成



青い地球を体験



エデュケーター取得者 20人

【9】エフピコ分別工場見学

期 日：8月6日(火)

場 所：プラスチック選別センター（佐賀工場）

参加者：10人

内 容：資源分別、食品ロス問題についても学べる体験活動。プラスチック選別センターにバスにて向かい、(株)エフピコの活動を学習後、工場内を見学した。学習会では、様々な種類のプラスチック容器があることやリサイクルの現状を学んだ。年間で回収するトレイを積み重ねたら、日本の縦距離の3倍になるという。それだけのトレイをゴミにせずリサイクルしていることに驚いたと同時に感謝する参加者たちだった。工場内の見学は、騒音の中でイヤホンをつけて説明を聞いた。沢山重ねられているプラスチックの大袋の中身がどんどん選別されていく仕組みを学んだ。赤外線を選別される工夫もされており驚いた。エフピコと記載されたプラスチックトレイは、回収できるが100%回収できている状態ではないので、回収率が上がることを期待したいと思った。循環型構想の基本、資源の有効活用意識できる見学会だった。



【10】海辺の自然再生高校生サミット参加

期 日：10月12日(土)～14日(祝・月)

場 所：神奈川歯科大学

参加者：6人(登壇4人)

内 容：

各地でアマモ場再生活動が行われ始め、全国の高校生が海辺の自然再生や生態系保全に係る活動の成果の発表や意見交換を行う場に参加した。他校の生徒達がアマモ場再生の取り組みや地産地消の食品開発等を発表する中、当会エコユースやつしろの発表は、高校生が地域のことを学び地域に伝え、環境問題を他人事ではなく自分事としてとらえていくことの大切さを発表した。また、球磨川河口の干潟のいきもの調査についても、始めたきっかけや現状を紹介した。質疑では、「どうしたらそのように高校生が沢山集まるのか?」と質問されたり「同じように干潟を調査をしている仲間がいることに嬉しかった」など、自然環境への課題に取り組む仲間が沢山いることに刺激を受けてい



た。また、講演会ではSDGsの捉え方を考えさせられる内容で「本来の自然と人間が共存していく仕組み」について学ぶことができた。



パネルセッション



活動発表



代表討論会



全員で記念撮影



アマモンとうみすけ



【11】水防災歴史見学会

期 日：9月24日 9:00～16:00

場 所：八代市内球磨川流域歴史カ所

参加者：エコユース八 14人・講師 2人・

スタッフ 3人・一般 2人 合計 20人

講 師：向田清峻課長ほか八代河川事務所から 5人

内 容：球磨川流域の堤防や被災地の現状、新着状況を先生の解説で見学できた。

水害時のことを知らない方々ばかりで、専門家から解説に「初めて知ることばかり」とメンバーには驚きがあった。

EYYの感想から

- ・球磨川の堤防にいろんな工夫が有って、昔の人々の知恵や工夫を知ることができたので、それらを大切にしていきたい。
- ・球磨川は八代にとって重要な場所。水を守り、生き物の多様性も守り、きれいな球磨川を後世に残していきたい。
- ・今日の水の散策学習を通して八代の発展の陰に水が有った事に、また石工達の血の滲むような苦労が有ったのだと感じました。
- ・堤防や橋など詳しく見たことが無かったので、新たな発見や知識などが増え、より八代の事を知れて良かった。



球磨川の新しい橋の現場



柳瀬の流域治水の現場を見学



橋脚だけが残る現場で説明

【12】球磨川河口干潟再生に向けて「潟ガタ語ろう」会

期 日：9月24日 9:00～16:00

場 所：八代市内球磨川流域歴史カ所

参加者：エコユース八 14人・講師2人・

スタッフ3人・一般2人 合計20人

講 師：森敬介先生・伊藤教行氏

内 容：八代海保全のための調査（マイクロプラスチック
ベントス他）についての講演会

感 想：八代の干潟のお話、マイクロチップのお話、共に非常
干潟についても、その貴重性、身近に有って当たり前
るべき環境であるという新しい気付きがありました。マイクロチップの
話、河川の源流近くまでプラ汚染が確認されていることは衝撃でした。



左：伊藤氏 右：森先生



興味深く真剣に話を聞くメンバー



参加者全員での意見交換会

【13】八代日本遺産見学会

期 日：9月24日 9:00～16:00

場 所：八代市内球磨川流域歴史カ所

参加者：エコユース八 14人・講師2人・

スタッフ3人・一般2人 合計20人

講 師：松永昭吾氏

内 容：現在私たちが住んでいる八代平野ができたのです。
そこで、実際に現地に行って、石工たちの技術や
球磨川の水の力、そして石工集団への感謝の気持ち
を感じ、八代の地域学を高めることが目的です。

感 想：今日の活動でもまた、八代の魅力を知れて、参加し
て良かったと思う。種山石工集団はすごいとたくさんの人が
言っていて、噂としては知っていたけど、世界的に注目されている集団だったなんて
知らなかった。そんな方々が私の生まれ住む八代に居たなんてとても誇らしいと思
う。今までの活動で八代の魅力についてたくさん学んできた。どれもとても興味深く
て楽しく学べている。これから先も活動を通して、郷土愛を育んでいきたいと思う。
*都会では水不足があるということを知り、私は都会へ行きたい気持ちがありました
が、水道代が沢山かかり、一人暮らしを圧迫してしまうと考えると県内に残ることも
大切なことだと思いました。



石橋（笠松橋）



樋門（おぎや樋門）



樋門（郡築）

【14】高校探求の時間で授業

- ① 期 日 2023年11月18日（金）14:00～16:30
場 所 八代高校理科室 参加者 50人
内 容 八代海・干拓地の成り立ちと現状を当会顧問川口顧問に干拓地のできた歴史について模型を使い、また国の資料を基に講義いただいた。
→
- ② 期 日 2024年12月1日（金）15:30～16:30
場 所 八代高校理科室 参加者 80人
内 容 九州大学生の先生の海洋ごみ問題と松浦の対話型講演会
- ③ 期 日 2025年1月17日（金）14:30～16:00
場 所 八代高校体育館 参加者約 200人
内 容 探求の時間で取組んだパネルセッション → 当会が相談を受けた課題も6件あった。



感 想

*八代の河川環境について詳しく知るができた。干潟を造るとき周囲の環境にも気を使いながら、自然を守る事は難しい事だと感じた。
*今回の講義で、生物と河川環境の関連性について深く知ることができ、河川環境が良くなれば、生物も増え、悪化すれば生き物も減ることが印象に残った。
*昔の球磨川の姿に戻る干潟再生をし、棲息する生き物の種を増やそうとしていることに関心を持った。
*河川にはとても重要な役割があるのだと思いました。私は川のことを1つの自然としか見ていませんでしたが、川に工夫をすることだけで、生き物たちにとってはとても棲みやすい環境になることを理解できました。

【15】球磨川再生地愛称記念セレモニー

- 期 日 2025年3月15日（日）
場 所 エコエイトやつしろ（八代市港町）
参加者 八代市長、エコユースやつしろほか市民・国土交通省
八代河川事務所、八代高校吹奏楽部 約 150人
内 容 球磨川 干潟再生地 愛称決定セレモニー
国土交通省八代河川事務所が

球磨川再生地「干潟フェスティバル」の開催、「地域の課題と解決のワークシート冊子」の作成と配布、干潟の生きもの調査の実施している干潟であるが、特に国土交通省との連携を深めることができ、「干潟フェスタ」や干潟の愛称（「生き物潟り」）の決定に伴う除幕式を共同で実施すること中でも、干潟の愛称が「生き物潟ち」に決定したことは、参加者の関心を集める大きな話題となり、地域全体の注目度向上にもつながったと考えられる。



感 想

毎月、生き物調査を行っている干潟に名称募集をした中から選ばれた名前が発表された。毎月おとずれ愛着が沸いている場所にどんな名称が名づけられたのか楽しみにセレモニーに参加しました。オープニングに八代高校の吹奏楽部が動きのある素敵な演奏に感動をもらい、今まで関わってきた干潟に思いのある方々の挨拶があり愛称看板の序幕式が、豪華に行われた。天候の関係で干潟での除幕式が出来なかったのが少し残念だったが、エコエイト会場で素晴らしいセレモニーの中「生き物潟り」が発表された。干潟の潟を入れた覚えやすく、八代干潟にぴったりな名前となり嬉しく感じた。宮地町の有志の方々が振る舞った団子汁が美味しすぎた。



約 150 人の来場者



愛称の看板



愛称看板除幕式



河川事務所長、市長と記念撮影



定例いきもの調査「生き物潟り」

【16】海外ユース YEW と干潟保全オンライン情報交換会

期日：5月17日（金）20:00～22:30

場所：各自宅

参加者：メンバー7人・通訳他6人・海外ユース5人

内容：・EYY:1年間の体験活動の紹介 合計18人



YEW https://www.youthengagedinwetlands.com/?fbclid=IwZXh0bgNhZW0CMTEAAAR37wB_mou01S5LWLkK91FqIBsZQ8PFk7V3wfJ75mnAnaJYRcBI-FBw4WwU_aem_WgB7iI5LOyar-xUxRejw1Q との干潟情報交換会議

この YEW は 6/3-7 にジュネーブで開かれるラムサール条約常設委員 (Standing Committee) で発表をされた団体で、アリアナ・マギニ (女性) 上級政策担当官 | ラムサールユースフォーカルポイント | ユースワーキンググループ議長であるアリアナ・マギニ (女性) さんたちがオンラインで交換会をしました。

情報交換会の日時などのやり取りをはじめ、本番では司会進行を EYY の米田彩乃さん、またエコトーンいきもの調査の報告を EYY の島田和花さんが務めました。

【20】その他体験活動 情報発信と県内外や日本各地で発表

◆地元ラジオ生放送に全員出演

エコユース八代メンバー ほぼ全員、年間を通じた体験活動の感想や、イベント紹介をラジオ生放送に出演した。

体験したことを相手が見えない「声」で表現することの難しさを体験した。単なる参加では無く、振り返りをするこも出来て、改めて活動を学んだようだ。

干潟フェスタの告知を地元ケーブルテレビでは 18 回放送された。





◆地元ケーブルテレビ出演し、干潟フェスタ告知を行った



4期生の二人が放送に挑戦

◆八代市役所玄関ホールで活動パネル展示

地域の不法投棄問題やごみ問題、干潟での生物調査などを行っています。これらの活動は、従来のごみ問題への対処にとどまらず、地域の地形や自然環境、生息する生物、さらに気候変動や社会変化が地域に与える影響についても総合的に学び、考えることができる機会を提供しています。活動の一環として、八代市役所を会場に、市民に対して活動を紹介し、不法投棄の現状を伝えることで、環境保全への意識を深めてもらうことを目指しています。



◆その他

その1 「2023年度河川財団活動報告優秀賞」受賞



その2 「くまもとSDGs大賞」受賞



その3

2024年度活動報告及び、小冊子データは「次世代のためにがんばる会」ホームページ <https://www.ganbarokai.net/> にてご覧ください。

3.川づくり団体部門

【実施箇所位置図】

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2024-6111-001	地域連携『くま川の魅力を知り尽くす球磨川河口再生大作戦』	次世代のためにがんばる会 代表 松浦ゆかり
主な実施箇所	熊本県八代市中北町 球磨川河口（南川及び前川河口部）	

※活動を数か所で実施している場合は、代表的な箇所を1箇所程度記載してください。

助成事業の主な実施箇所



※シンポジウムや講演会等、会場の名称➡ 熊本県八代市新町5-20 桜十字ホールやつしろ案内のチラシは添付します。

※冊子の作成等の場合は団体の所在地 ➡ 熊本県八代市通町6-43 データーは大きいので、CD-R で送付 また、会のホームページに掲載しています。

遠景

近景

河川基金ロゴ等表示状況写真

